

なつ ほしぞら あま がわ み 夏の星空と天の川を見よう！

梅雨^{つゆ}が明けると、本格的な夏の始まりです。梅雨前線^{ほんかくてき}が北上^{なつ}すればしばらくは晴れた日^はが続くため、星空観察^{ほしぞらかんさつ}に向いている季節^むになります。そんな晴れた日の夜は、外に出て空^{そら}を見上げて、星空^{ほしぞら}を眺めてみませんか。



8月中旬 20時ごろの星空

夏の夜空を見上げると、ひときわ明るく輝いて見える星があります。それは七夕伝説の織姫^{おりひめ}としても有名な、**こと座1等星の「ベガ」**とおなじく七夕伝説の彦星^{ひこぼし}として有名な、**わし座1等星の「アルタイル」**、**はくちょう座の1等星「デネブ」**で3つを結んで「**夏の大三角形**」と呼ばれています。あたりが暗ければ、この三角形の中に白いモヤのような「**天の川**」が見えます。地平線の近くにみえるのは、**さそり座の1等星「アンタレス」**。赤い星で、さそり座の中心にあるので、**さそりの心臓**と呼ばれています。

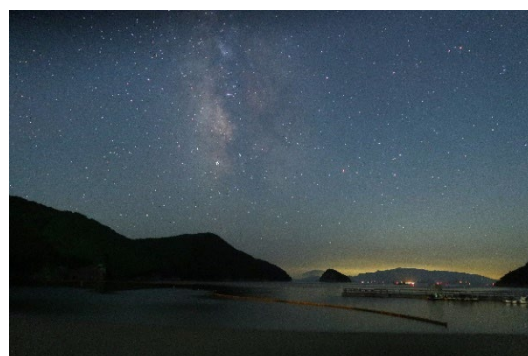
【天の川の正体は？】

夜空に浮かぶ白いモヤの正体は何なのか。長年の謎の答えにたどり着いたのは、17世紀の有名なイタリアの天文学者「ガリレオ・ガリレイ」でした。

ガリレオは自作した天体望遠鏡で天の川を観察し、天の川を形成する白いモヤが、小さな星の集まりであることを突き止めたのです。



ガリレオ・ガリレイ
(1564~1642)



家島諸島（姫路市）で見た天の川



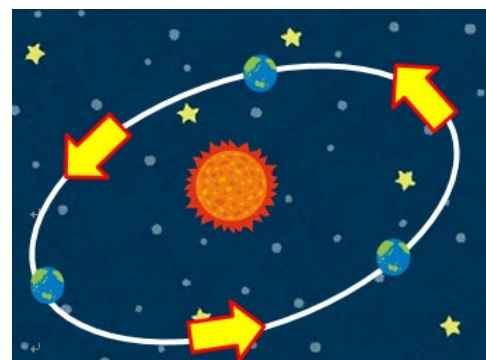
でんとうてきたなばた こよみ 伝統的七夕と暦について



天体イベントのひとつ、「七夕」には2種類あるのを知っていますか？一つは、現在の7月7日で、現在の暦である太陽暦（いわゆる新暦）によるもの。もう一つは、太陰太陽暦（いわゆる旧暦）の7月7日で、現在は「伝統的七夕」と呼ばれています。こちらは、今年は8月19日が該当します。新暦の7月7日は日本ではまだ梅雨のシーズンで雨の日が多く、空を見るのに適していない時期。比べて、伝統的七夕のころは夏空が広がることが多いので、星空を楽しむことができます。織姫と彦星も安心ですね。

【新暦と旧暦で日がズれるのはなぜ？】

現在の私たちは、太陽が地球の周りを1周する期間（約365日）を1年とし、それを元に暦を決める新暦（太陽暦）で暮らしています。一方、今から200年ほど前、明治6年までは、月の満ち欠けの周期を1か月とする旧暦（太陰太陽暦）で暮らしていました。



地球が太陽を1周する期間を1年とした現在の暦（太陽暦）

【旧暦（太陰太陽暦）の1か月の考え方】

夜空に月が出た日を「1日」とし、月が見えなくなるまでの期間を「1か月」としていました



1日

7日

14～16日

22日

29～30日

今でも、1日を「ついたち」と読むこと（月が出た（立った）日→「つきたち」が、「ついたち」）十五夜が満月を表す言葉（旧暦だと15日はだいたい満月になる）であるのも、旧暦の名残です。月の周期は29.5日であるため、旧暦の1年は354日（ 29.5×12 ）となり、今と比べると、11日少なくなってしまう。このズレを解消するため、旧暦では数年に1度、1年が13か月になる「閏年」を作り、13か月目の「閏月」を挟むことで、季節のズレがないように調整していました。

アクティブ・レンジャーを出前授業に呼んでみませんか？

この記事を書いた兵庫県南部・瀬戸内海側にある神戸自然保護官事務所の中村（なかむら）です。自然の中で遊べる出前授業も行っています。

↓↓興味のある方は、お気軽に下記までご相談ください↓↓

環境省 神戸自然保護官事務所 TEL:078-331-1146 FAX:078-331-1148
竹野自然保護官事務所 TEL:0796-47-0236 FAX:0796-47-0249

